

新年度が始まりました。 思い出に残る一年にしましょう。

国際ロータリー第 2580 地区
2024-25 年度ガバナー

石川 彌八郎



2024-2025 年度 会長の皆さんこんにちは。

ガバナーを務める石川彌八郎です。いよいよ始まりました、よろしくお願いします。

これから一年間、このガバナー月信を通じて、僕が世の中の一員として生活をして、感じたこと、考えたこと、思ったこと、あるいは、思ってきたことを、思いっきり書きたいと思っています。時には、僕の考えに対し「皆さんはどう思いますか。」と、投げかけることもあるでしょう。もし興味があり、皆さんの各クラブで時間が取れたら、例会で議論してもらっても結構です。プログラムが固まっていて、ねじ込む隙間がないようでしたら、個人としての、あるいはクラブ会長としての意見を頂いても結構です。そういうことで、この月信は、僕から皆さんへのメッセージではありますが、コラム的な部分も多くなるでしょう。楽しみにしててください。

●今年度のガバナー月信の狙い。

ガバナー月信の構成は大きく二つ。一つは前述した僕からのメッセージ、コラム。そして、皆さんの自己紹介文で成り立ちます。その他、RI や地区の情報等もあるでしょうが、ほとんどが上記の二点になります。皆さんの自己紹介文を組み込んだ理由は、今年度のテーマである「隔たりを取り除き、“ご縁”を大切に」に基づきます。

これは何度かお話したことですが、人は人によって磨



かれる。ロータリーとは自己研鑽を目指す人の集まりです。第2580地区には自分を磨いてくれる人が3000人もいます。もし、あなたのクラブの会員が50人であったとしたら、知らない2950人が、我が地区には潜在する。この縁を活かさないと、なんともったいないことでしょうか。

●73名の同期会長と13名のガバナー補佐との出会いを大切に。

同期の会長は73人です。これも一つの縁です。是非とも一年を通じてより多くの同期会長と太い絆をつないでもらいたいと思います。様々な会合で顔を合わす機会があるでしょう。積極的に挨拶をし、話をして、名刺を交換してください。…とは言っても話しかけるには何かのきっかけが必要です。何か共通するもの、趣味でも、出身地でも、出身校でも、知人等。また、一人一人がどんな人物であるかをあらかじめ知っておくことも重要です。職業、経験、価値観、人生観それ

らを前もって知っておくことにより、話しの勢いに拍車がかかることでしょう。その情報の提供が、このガバナー月信に掲載する皆さんの自己紹介、自己PRの文章です。必要に応じて写真の添付もいただいて結構です。対象は、73人の会長と13人のガバナー補佐の86人となります。概ね10カ月をかけての紹介になりますので、順番によっては期末のご紹介になってしまうのですが、その辺はご容赦ください。次年度、次年度、様々な場面や役職で、このご縁が生きることもあると思って、お許しください。

文字数は特に制限するつもりはなかったのですが、文字数と締め切りは明示されたほうが書く人にとってはやりやすい、との意見があったので、参考までに300字程度としました。近年のガバナー月信は印刷して製本するものではないので、ページ数に制限はありません。従って300字は絶対厳守ではないのですが、あまり長すぎると、読む気がなくなる恐れもあるので、その辺を考えたうえで書いてください。また、何を書いてよいかわからない方もいるかもしれない。との意見もあったので、趣味、出身地、好きな映画、音楽、感銘を受けた書物、等選択肢を設けましたが、これも参考にしてもらえれば結構で、他の角度からの自己紹介文でも一向にかまいません。では、僕の自己紹介から始めましょう。

●自己紹介：石川家に第一子長男誕生。

僕は、1964年（昭和39年）、東京都福生町生まれ。（現在は福生市）清酒「多満自慢」を醸造する造り酒屋、石川酒造。その第一子長男として生まれました。跡継ぎ誕生ということで石川家は大フィーバー。当時の家族は、父母、祖父母、曾祖母、それに加え父の姉妹が3人、合計8人の中に生まれた第一子長男で、ひっきりなしに抱っこされ、かわいがられていたとのこと。それに加え、当時の造り酒屋は、会社と言っても家業なので、家庭と帳場の区別もあまりなく、集金だ、配達だとなると営業車やトラックに載せてもらいドラ



イブをしたり、住み込みの蔵人さんや飯炊きのおばさん、掃除のお姉さん、桶や樽を直す大工さん、畑を手伝ういわゆる作男など、屋敷中、蔵中、どこを歩いても「やあ、太郎ちゃん」と、かわいがられたものでした。

●幼名「太郎」から「彌八郎」の半生。

「太郎」というのは僕の幼名です。石川家の当主は代々「彌八郎」の名を襲名し、当主が亡くなると次期当主が「彌八郎」を名乗ります。僕の父も幼名は「慶一郎」でしたが、祖父が亡くなり「彌八郎」を襲名。祖父も「真作」が幼名でしたが、曾祖父が亡くなり「彌八郎」を襲名。僕も父が亡くなり、「太郎」から「彌八郎」に襲名したのでした。そんなことを十八代、約四百年続けています。



僕が生まれて1年半後、祖父（東京福生RC初代会長）の還暦祝いの写真です。中央右で父に抱かれているのが僕です。

このニュースは近隣にはすぐに伝わり、少し足が達者になり、周り近所の家まで歩けるようになると、近所のおじさんおばさんからもかわいがられ、家に上げてもらうこともありました。勝手に冷蔵庫を開けていたこともあったそうです。

●小・中・高と大学生生活。

小学校は地元の福生第五小学校。多摩川沿いの田園の中にあるのどかな小学校で、野鳥が豊富、僕は愛鳥クラブに所属していました。

中学は、府中の明星中学に入学。しかし、校風になじめず二年でやめて、地元の福生三中を卒業。この中学校は市立中学にしては珍しく、制服なし、校歌なし、おまけに校則もなく、学園ドラマに出てくるような学校でした。校歌がなかったので卒業式などでは岡林信康さんの「友よ」を歌っていたのが印象的でした。

高校は都立府中高校。この学校も制服はなく、毎日ジーンズで通っていました。高校時代は山岳部。山岳部と言っても冬と岩はやらず、夏山のみ。八ヶ岳、谷川、後立山は登りました。奥多摩も近かったので、数



ヤマハ RZ250 と僕

人で登りました。夕方出発の夜間山行、無人の避難小屋を目指し一泊するのです。何をしに行っていたかという、酒飲みでしたね。高校生なので、さすがに街で飲むのはまずいので、バレないように山で飲んでいたのですが、なぜかその情報が生活指導部に流れ、数カ月の活動停止の処分を受けたこともありました。

高校入学後すぐに、原付、中免をとり単車乗りになりました。最初はヤマハ RZ250、次にホンダ RS250、こいつで派手な事故を起こしてしまったのですが、もらい事故だったので保険が下りて、そのお金でヤマハ XJ400 を買いました。250 から 400 に格上げです。最後はヤマハ RZ 250。これは早かった。6500回転からの強烈な加速は印象的。しかし今から思うと、スピードメーターは 160 キロまでだったので、最高速はそれほどではなかったのでしょうか。

●趣味を活かしながら…。

勉強はあまりしていなかったもので、なかなか大学には入れず、三浪して東海大政治経済学部に入學。大学入学後はホンダ CBX 400 インテグラ、カワサキの GP750、ヤマハのセロー、という感じです。今となつては結構な名車ばかり。そういうことで現在の中古車価格が半端ではない、RZ は 300 万円、CBX にあつては 550 万円の値がついていました。実は、RZ はまだ持っているのですが、CBX も売らなければよかったと、残念な思いです。

大学では表千家茶道会。その他、地元のスイミングクラブや、スキー連盟で水泳やスキーを子供に教えていました。実は現在、プールの先生は四年前から復帰して、今でも近くの小学校で教えています。プールサイドでは「太郎先生」と呼ばれています。水泳指導を再開したのは「職業奉仕」の概念の延長線上なので、そ

のうち本稿でも紹介します。「職業奉仕」の特集で取り上げますので、お楽しみに。

●趣味が高じて演奏者に…。

学生時代は、中古の LP レコードを買いまくっていましたね。イーグルス、レッド・ツェッペリン、ディープパープル、70年代ロックが多かったかな。その他、ビートルズ、ボブディラン、吉田拓郎、エリッ



ククラプトン、サイモンとガーファンクル等々。しかしそのころは楽器の演奏はせず、聞くだけでした。現在僕は、ブルースハーモニカ奏者としてライブを行ったり、年内には CD (もしかすると LP になるかも) をエレクトレコードから出す予定ですが、僕がハーモ

ニカを吹くようになったのは 30 歳の時でした。それまでの音楽と言えば学校の音楽の授業だけで、中高時代にバンドをやっていたとか、子供のころからピアノを習っていたとかではないので、ミュージシャンとしてのスタートは極めて遅いと言えます。しかし、今になって思えば、そのころに聞いていた音楽が現在の演奏に影響していることを感じる事が時々あります。

大学卒業は 1990 年、『なんと、最短の 4 年間で卒業し、親戚を驚かせました。』卒業後は、すぐに石川酒造に入社。最初の一年は秋までは配達、冬は酒造り。その後、国税庁醸造試験所に一年ほどいて、そこで醸造の知識を得ました。社会人になり三年が経過し、少し貯金もできたので自動車を買うことにしました。買った車は中学生のころ観たダスティン・ホフマンの「卒業」の影響で、アルファロメのスパイダー。買って半年で製造中止になったので最終モデルです。まだ持っていますが、それはそんなに値が上がっていないようです。今でも時々、サイモンとガーファンクルを聴きながら乗っています。

●家業の酒造業について。

我が国での日本酒の消費量は 1973 年がピークで、現在はその 25% 以下に落ち込みまし





た。石川酒造の売上も1990年代以降急激に降下し、98年には地ビール製造、酒蔵内でのレストラン経営にも着手し、それなりの売上と利益は確保しましたが、主力の日本酒の落ち込みをカバーするには及ばず、2002年には人員整理も余儀なくされ、慙愧の念に堪えない思いです。ロータリーに入会したのはちょうどそのころであり、僕が職業奉仕の概念に対し強く興味を示しているのは、そのためかもしれません。

その後20年で今日に至った次第です。ざっとそんなところが、僕の人生です。

●次号のガバナー月信もお楽しみに。

さて、本年度のテーマは「隔たりを取り除き、「ご縁」を大切に」です。これを決めたのは、かれこれ半年前です。その後、「何と何の隔たりを取り除くのか」「縁とは何だ」などを自分なりに考えてきました。また、米国研修の後は「四つのテスト」を考えました。「職業奉仕」に関しても僕なりの考えがあります。8月以降は、このようなテーマを、時には自身の体験と照らし合わせながら、筆を進めていきたいと思えます。楽しみにしててください。

皆さんからの、自己紹介文も楽しみにしています。では、一年間よろしく願いいたします。



第2580地区会員数・クラブ数

2024年5月31日現在

クラブ数 73RC

正会員数 3,090名 (内女性318名・10.29%)

5月の入会者数 23名 (内女性9名)

5月の退会者数 6名 (内女性1名)

5月の増減数 17名

2023-24年度入会者数 346名

2023-24年度退会者数 216名

2023-24年度増減数 216名 (内女性67名)

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

6回	伊藤	三千男	【東京江東】
7回	鈴木	隆雄	【東京江東】
1回	押見	守康	【東京上野】
1回	木村	節男	【東京上野】
2回	西原	敬一	【東京小平】

ポール・ハリス・フェロー

河西	史郎	【東京江東】
佐々木	榮亨	【東京小平】

ベネファクター

富坂	伸吾	【東京上野】
渡邊	恭司	【東京上野】
佐谷	剛	【東京上野】

米山功労者

富坂	和弥	【東京上野】
----	----	--------

ポール・ハリス・ソサエティ

小林	康徳	【東京向島】
----	----	--------

ポリオ・プラス・ソサエティ

今	貴子	【東京向島】
---	----	--------

【哀悼】謹んで哀悼の意を表します

東京武蔵村山 RC

野島 征 (のじま すすむ) 会員

逝去日 2023年1月28日 享年78

入会日 2001年7月1日

(株)野島製作所 取締役会長

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー (2)

マルチプル・米山功労者 (2)